



THR Series Guitar Amplifier

THR100HD / THR100H

Owner's Manual

取扱説明書

Bedienungsanleitung

Mode d'emploi

Manuale dell'utente

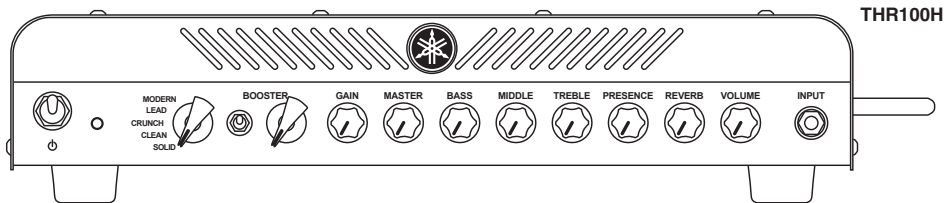
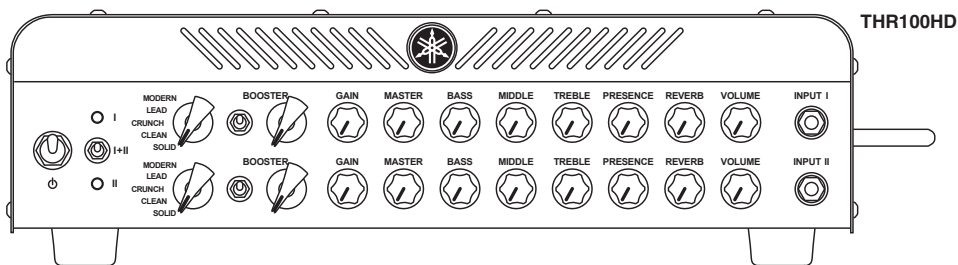
Manual de instrucciones

Manual do Usuário

Руководство пользователя

使用手冊

사용설명서



EN JA DE FR IT ES PT RU ZH KO

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Русский

中文

한국어



THR series Guitar Amplifier

THR100HD / THR100H

取扱説明書

目次

安全上のご注意	2
はじめに	5
特長	5
パッケージの内容	5
各部の名称と機能	6
キャビネットとの接続	12
電源の接続	15
エフェクトループの使い方	15
フットスイッチの使い方	16
さらに細かく設定するには	17
困ったときは?	19
仕様	20
保証とアフターサービス	21
保証書	22

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品




安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

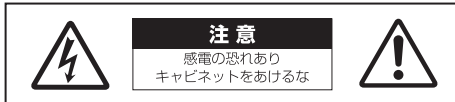
■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センター（→ 21 ページ）にご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに乾拭きする。

感電やショートのおそれがあります。



アース接続を確実にする。

感電のおそれがあります。（アース接続については 15 ページをご参照ください。）

接続



- 接地接続は必ず、主電源プラグを主電源にしっかりと前に行なう。
- 接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行なう。

電源コードには、感電を防ぐためのアース線があります。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センター（→ 21 ページ）に点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



本体の上にもろそくなど火気のあるものを置かない。
ろそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード / プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なにおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センター（→ 21 ページ）に点検をご依頼ください。

注意

電源 / 電源コード



たこ足配線をしなさい。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないとときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



本体の放熱ファンや放熱用スリットに本などを置いて、ふさがない。
本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



この機器をラックに入れて使用しない。
また、放熱のため、この機器を設置する際は、

- ・布やテーブルクロスをかけない。
- ・じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- ・天面以外を上にして設置しない。
- ・風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。本機の周囲に上 5cm、左右 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保してください。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。



この製品を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないとときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



大きな音量で長時間ヘッドフォン / スピーカーを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

- 製品ラベルは本体の底面に掲示してあります。

・使用後は、必ず電源を切りましょう。

注記（ご使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPad、iPhone、iPod touch のアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため iPad、iPhone、iPod touch の機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります（5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています）。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルやノブが変色 / 変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。

お知らせ

■データの著作権に関するお願い

- ヤマハ（株）および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- この取扱説明書で説明に使用されている製品イラストは、断りのない限り THR100HD です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac または Macintosh は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬ所で迷惑をかけることがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

はじめに

このたびはヤマハギターアンプ THR100HD, THR100H をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。本製品の機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願い申し上げます。

■ 特長

- ・ 圧倒的な軽量コンパクトなサイズでありながら、真空管アンプと変わらない音量 / 音圧 / ダイナミクスを実現した、プロクオリティの音質を誇るギターアンプヘッドです。
- ・ ヤマハ独自の「VCM Technology*」を駆使した、アンプモデリングとパワー管モデリングを搭載。プリアンプ / パワーアンプの自由な組み合わせによる緻密な音作りが可能です。
 - * **VCM Technology とは？**
ヤマハ独自の技術である「VCM Technology」は、アナログ回路の特性を素子レベルでモデリングし忠実に再現することを可能にする技術です。
- ・ ヤマハハイエンドミキサーなどに採用されている高品質リバーブを搭載。
- ・ 新開発クラス D アンプにより真空管アンプ特有の挙動を忠実に再現。真空管アンプが持つ音圧感やダイナミクスを体感できます。
- ・ THR100HD は、2 台のアンプをミックスして音作りができる「デュアルアンプ」機能を搭載。サウンドキャラクターの異なる 2 台のアンプを駆使して作り上げる、トッププロクラスの濃密なサウンドが、このアンプ 1 台で実現できます。また「デュアルアンプ」機能を活用して、1 台のアンプで 2 本のエレキギターをそれぞれ異なる音色で演奏したり、2 人同時での演奏も可能です。
- ・ LINE OUT と PHONES OUT にはスピーカーシミュレーションを搭載。ライン出力時でも、スピーカーキャビネットを通してマイクで録音したかのような空気感のあるダイナミックなサウンドを実現。またサードパーティー製のスピーカー IR データ* を取り込むことができ、スピーカーキャビネットやマイクの種類、マイキング方法など様々な組み合わせでギターサウンドを楽しめます。
 - * **スピーカー IR データとは？**
スピーカーの応答特性 (Impuls Response) データのことです。

■ パッケージの内容

本製品のパッケージには、以下のものが同梱されています。箱を開けたらまず同梱品を確認してください。

● THR100HD

- ・ ギターアンプ本体 × 1
- ・ 電源コード × 1
- ・ 電源プラグ変換アダプター (3P → 2P) × 1
- ・ 専用フットスイッチ (5 スイッチ) × 1
- ・ フットスイッチ用 5P DIN ケーブル × 1
- ・ 取扱説明書 (本書 : 保証書付き) × 1

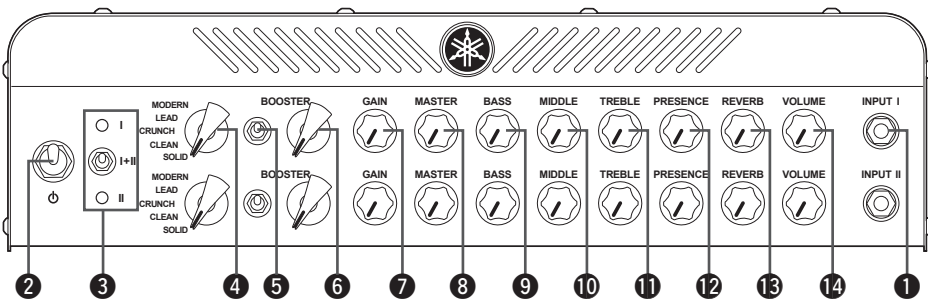
● THR100H

- ・ ギターアンプ本体 × 1
- ・ 電源コード × 1
- ・ 電源プラグ変換アダプター (3P → 2P) × 1
- ・ 専用フットスイッチ (3 スイッチ) × 1
- ・ フットスイッチ用 5P DIN ケーブル × 1
- ・ 取扱説明書 (本書 : 保証書付き) × 1

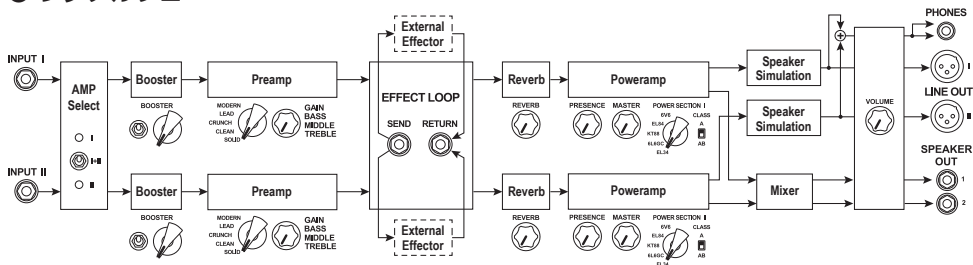
各部の名称と機能

THR100HD

● フロントパネル

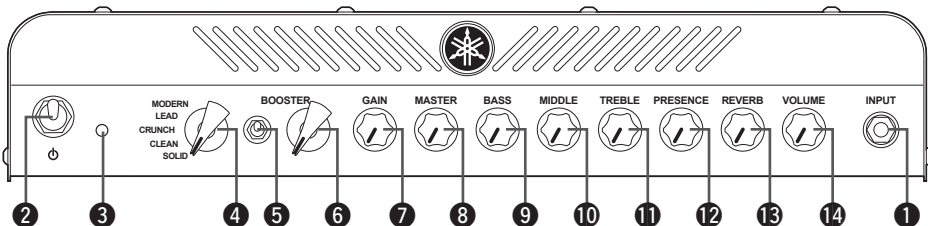


● シグナルフロー

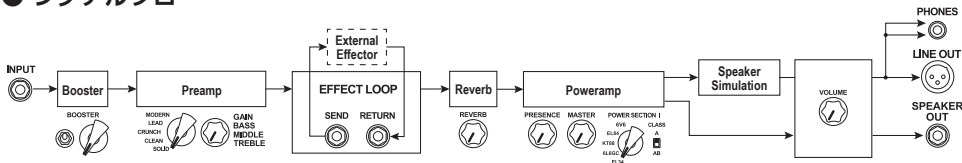


THR100H

● フロントパネル



● シグナルフロー



※スピーカーとキャビネット

一般的にヘッド部とスピーカー部が分かれたギターアンプの場合、スピーカー部を「キャビネット」と呼びます。「キャビネット」には複数のスピーカーを内蔵しているものがあるため、本文中ではSPEAKER OUT端子に接続するものを「キャビネット」と呼び、キャビネット内のスピーカー単体を「スピーカー」と呼ぶこととします。

① INPUT I/II

ギターを接続する端子です。

THR100HD では、INPUT I 端子および INPUT II 端子からの信号は、アンプセレクトスイッチ ⑤ によりアンプ I (上段) またはアンプ II (下段) に振り分けられます。

⚠ 注意

ギターを 1 本だけ接続する場合は、必ず INPUT I 端子に接続してください。INPUT II 端子だけに接続しないでください。故障の原因となります。

② (電源スイッチ)

本機の電源スイッチです。

電源オン時、アンプのランプ ③ とフロントグリルのランプが点灯します。

⚠ 注意

本体動作に異常が検知された場合、保護機能が働き SPEAKER OUT 端子への出力が停止され、フロントグリルのランプが消灯したり電源が強制オフになったりします。保護機能が働いた場合の対応方法については「困ったときは？」(→ 19 ページ)をご覧ください。

③ [THR100HD] アンプセレクトスイッチ / ランプ

INPUT I および II 端子 ① の入力に対して、使用するアンプを切り替えます。選択されているアンプのランプ I/II が点灯します。

INPUT I 端子だけにギターを接続している場合

I.....INPUT I 端子に接続したギターの信号が、アンプ I (上段) に入力されます。アンプ I (上段) の出力だけが出力回路 * へ送られます。

* 出力回路 : SPEAKER OUT, LINE OUT, PHONES を示します。

II.....INPUT I 端子に接続したギターの信号が、アンプ II (下段) に入力されます。アンプ II (下段) の出力だけが出力回路へ送られます。

I+II...INPUT I 端子に接続したギターの信号が、アンプ I (上段) アンプ II (下段) 両方に入力されます。アンプ I と II の出力が出力回路へ送られます。

INPUT I、II 両端子にギターを接続している場合

I.....INPUT I 端子に接続したギターの信号が、アンプ I (上段) に入力されます。アンプ I (上段) の出力だけが出力回路へ送られます。

II.....INPUT II 端子に接続したギターの信号が、アンプ II (下段) に入力されます。アンプ II (下段) の出力だけが出力回路へ送られます。

I+II...INPUT I 端子→アンプ I (上段) の出力と INPUT II 端子→アンプ II (下段) の出力がそれぞれ出力回路へ送られます。

③ [THR100H] パワーランプ

アンプの電源 ON 時に点灯します。

④ アンプタイプセレクター

プリアンプ部のアンプタイプを選択します。

MODERN : 豊かな低音とサステインを持つ、アメリカンハードロックを代表するスタックアンプサウンドです。

LEAD : 程よいゲインのプリアンプによる、ミッドレンジの素晴らしい往年のイギリス製アンプサウンドです。

各部の名称と機能

CRUNCH : 明るく鮮明でありながらダイナミックな歪みが特徴の、ブリティッシュコンボアンプサウンドです。

CLEAN : クリアかつ豊かなクリーントーンが特徴的な、アメリカンコンボアンプサウンドです。

SOLID : ソリッドステート回路によるクリアなトーンが特徴のアンプサウンドです。

■ VCM Technology

この5つのアンプタイプには、各アンプの操作子による動作特性まで忠実に再現された特徴的なアンプサウンドが用意されています。これらは、ヤマハのVCM Technologyによる新開発アンプモデリングにより実現したものです。

さらに、リアパネルにあるチューブタイプセレクター **15** では、パワーアンプ部の真空管を差替えた場合のサウンドまでも忠実に再現しています。

5 BOOSTER スイッチ

ブースターのオン/オフを切り替えます。

* このスイッチがオンの場合、付属フットスイッチでもオン/オフを切り替えることができます。(→ 16 ページ)

6 BOOSTER コントロール

ブースターのかかり具合を調整します。

* アプリケーション「THR HD_H Utility」を使うと、ブースターのタイプを切り替えることができます。(→ 17 ページ)

7 GAIN

プリアンプ部のゲインを調整します。時計方向に回すほど歪み量が増加します。

8 MASTER

パワーアンプ部のゲインを調整します。時計方向に回すほど、シミュレーションしているパワーアンプ部での歪みが強力になります。

9 BASS

プリアンプ部の音色を調整します。時計方向に回すほど低域が強調されます。

10 MIDDLE

プリアンプ部の音色を調整します。時計方向に回すほど中域が強調されます。

11 TREBLE

プリアンプ部の音色を調整します。時計方向に回すほど高域が強調されます。

12 PRESENCE

パワーアンプ入力部の高域成分を調整します。時計方向に回すほど TREBLE よりもさらに上の高域が強調されます。

13 REVERB

リバーブ回路へのセンド量を調整します。時計方向に回すほど効果が深くかかります。

* ツマミを反時計方向いっぱいに戻すと、リバーブオフになります。

* アプリケーション「THR HD_H Utility」を使うと、リバーブのタイプを切り替えることができます。(→ 17 ページ)

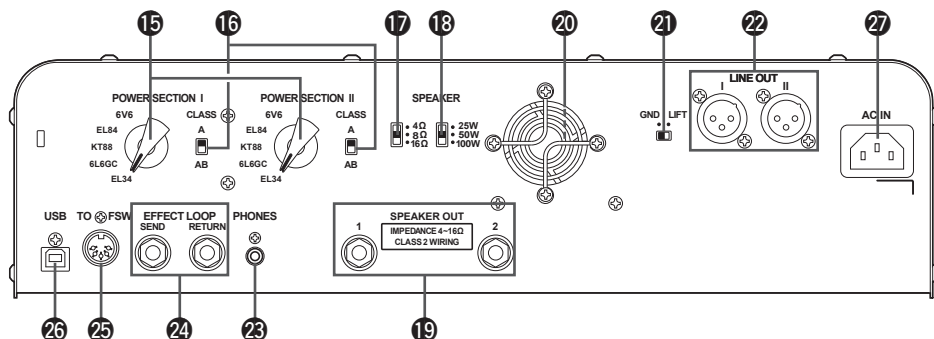
14 VOLUME

パネル上でサウンドメイクした音色そのままに、最終音量を調整します。

設定は SPEAKER OUT、LINE OUT、PHONES に共通です。

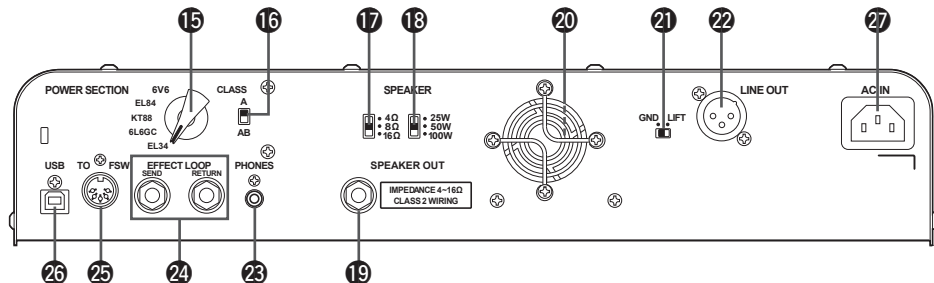
THR100HD

● リアパネル



THR100H

● リアパネル



15 POWER SECTION

チューブタイプセレクトター

パワー管の種類を選択します。

6V6 : 小さな音量でも歪みを得られることから、アメリカン小型コンポアンプによく搭載されるパワー管です。

EL84 : 柔らかいドライブが特徴で、ブリティッシュコンポアンプに多く採用されるパワー管です。

KT88 : 音量を上げてても歪みにくく、ジャズからメタル向けのアンプまで幅広いジャンルをカバーするパワー管です。

6L6GC : 中域の粘りが特徴で、アメリカンアンプによく採用されるパワー管です。

EL34 : 中高域の音抜けがよく、ブリティッシュアンプによく採用されるパワー管です。

* 実際に真空管が内蔵されているわけではありません。ヤマハの VCM Technology により各真空管の動作特性を忠実に再現したものです。

16 POWER SECTION

チューブクラススイッチ

チューブタイプセレクター 15 で選んだパワー管の動作を選択します。

CLASS A : レスポンスが良く、ピッキングのニュアンスに鋭敏に反応してくれるパワー管駆動方式です。

CLASS AB : 音量が大きくパワーもあり、迫力のあるサウンドが特徴のパワー管駆動方式です。

17 SPEAKER

インピーダンススイッチ

SPEAKER OUT 端子 19 に接続するキャビネットに合わせてインピーダンスを設定します。

THR100HD では、このスイッチの設定は SPEAKER OUT 1/2 両端子に共通です。

⚠ 注意

「キャビネットとの接続」(→ 12 ページ)をお読みの上、接続するキャビネットの仕様に合わせて正しく設定してください。間違った設定で使用すると、キャビネットや本機を破損するおそれがあります。

18 SPEAKER

出力ワット数スイッチ

SPEAKER OUT 端子 19 に接続するキャビネットに合わせて出力ワット数を設定します。

THR100HD では、このスイッチの設定は SPEAKER OUT 1/2 両端子に共通です。

⚠ 注意

「キャビネットとの接続」(→ 12 ページ)をお読みの上、接続するキャビネットの仕様に合わせて正しく設定してください。間違った設定で使用すると、キャビネットや本機を破損するおそれがあります。

19 SPEAKER OUT 端子

キャビネットを接続します。

THR100HD では、アンプセレクトスイッチ

3 の設定および SPEAKER OUT 端子 2 への接続の有無により、端子 1 および 2 へ出力される信号が異なります。詳しくは「キャビネットとの接続」(→ 12 ページ)をご覧ください。

20 冷却ファン

アンプ内部の熱を機外に放出します。ファンの回転数は内部のセンサーにより自動調節します。

⚠ 注意

熱がこもらないように、背面が開放された通気の良い状態でお使いください。

21 GND/LIFT スイッチ

LINE OUT 端子 22 のグラウンドを本体と接続する (GND) か接続しない (LIFT) を切り替えます。

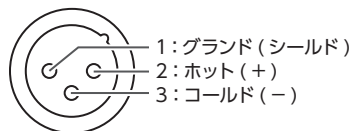
ハムやノイズが発生した場合、このスイッチを LIFT に切り替えることでノイズが消える場合があります。

22 LINE OUT 端子

スピーカーシミュレーション*を通った、ラインレベルの信号をバランス出力します。

*専用エディター「THR HD_H Utility」を使うと、スピーカーシミュレーターを設定することができます。(→ 17 ページ)

THR100HD では、アンプ I の出力が LINE OUT I に、アンプ II の出力が LINE OUT II に、出力されます。



23 PHONES 端子

LINE OUT 端子 22 と同じく、スピーカーシミュレーションを通った信号を出力する、ヘッドフォン用のステレオミニフォン端子です。

端子はステレオ仕様ですが、L, R 両端子に同じ信号が出力 (モノラル) されます。

THR100HD では、LINE OUT I 端子と II 端子の信号がミックスされたものが L, R 両端子に出力されます。

* PHONES にプラグを差し込むと、SPEAKER OUT 1/2 からの出力は停止します。LINE OUT I/II からの出力は停止されません。

24 EFFECT LOOP SEND/RETURN 端子

外部エフェクトへのセンド/リターン端子です。エフェクトループへの接続については「エフェクトループの使い方」(→ 15 ページ)をご覧ください。

* 付属のフットスイッチでエフェクトループのオン/オフを切り替えることができます。(→ 16 ページ)

25 TO FSW (フットスイッチ) 端子

付属のフットスイッチを接続します。詳しくは「フットスイッチの使い方」(→ 16 ページ)をご覧ください。

26 USB 端子

USB ケーブル (別売) を使って、コンピューターと接続します。

* コンピューターとの接続については「さらに細かく設定するには」(→ 17 ページ)をご覧ください。

27 AC IN

付属の電源コードで AC100V (50/60Hz) コンセントと接続します。安全のため、必ずアースを接続してください。

キャビネットとの接続

■ キャビネットの仕様

キャビネットと接続する前に、必ず以下の2つの値を確認してください。

- ・キャビネットの許容入力
- ・キャビネットのインピーダンス (抵抗値)

● キャビネットの許容入力

アンプのリアパネルにある出力ワット数スイッチを、接続するキャビネットの許容入力 * 以下の値に設定します。

* キャビネットの仕様では「出力」または「最大出力」と表示されています。

● キャビネットのインピーダンス (抵抗値)

アンプのリアパネルにあるインピーダンススイッチを、接続するキャビネットのインピーダンスの値に設定します。

SPEAKER



インピーダンススイッチ 出力ワット数スイッチ

⚠ 注意

間違った設定で使用すると、スピーカーや本機を破損するおそれがあります。

- ・ヤマハキャビネット THRC212 は、キャビネット側の設定により許容入力およびインピーダンスが変わります。THRC212 の取扱説明書をよくお読みになり、正しく設定してください。
- ・キャビネットを複数接続する場合は、システム全体での許容入力およびインピーダンスの値を計算の上、正しく設定してください。また、インピーダンスが 4 Ω ~ 16 Ω の範囲になるように接続してください。

■ 接続と設定

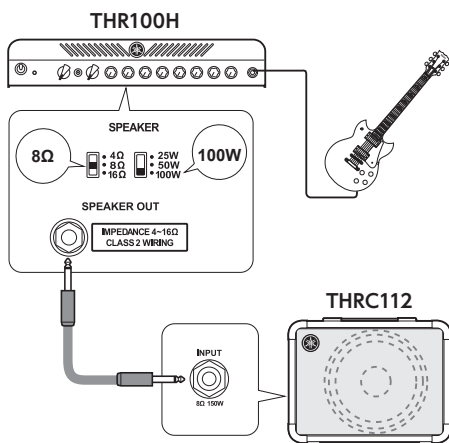
アンプとキャビネットとの接続には、市販のスピーカーケーブル (モノラル標準フォン-モノラル標準フォン) をお使いください。

⚠ 注意

- ・接続およびケーブルの抜き差しは、必ずアンプの電源を切った状態で行なってください。感電するおそれがあります。
- ・ギター用のシールドケーブルでは絶対に接続しないでください。スピーカーや本機を破損するおそれがあります。

● 接続例 1

THR100H に THRC112 (出力ワット数: 150W、インピーダンス: 8 Ω) を接続する場合

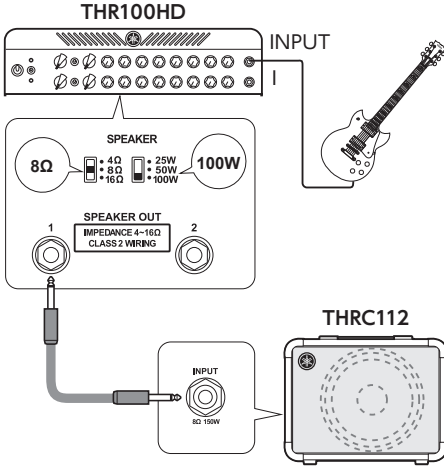


● 接続例 2

THR100HD に THRC112 (出力ワット数: 150W、インピーダンス: 8 Ω) を接続する場合



注意
キャビネットを 1 台だけ接続する場合は、
SPEAKER OUT 1 端子に接続してください。



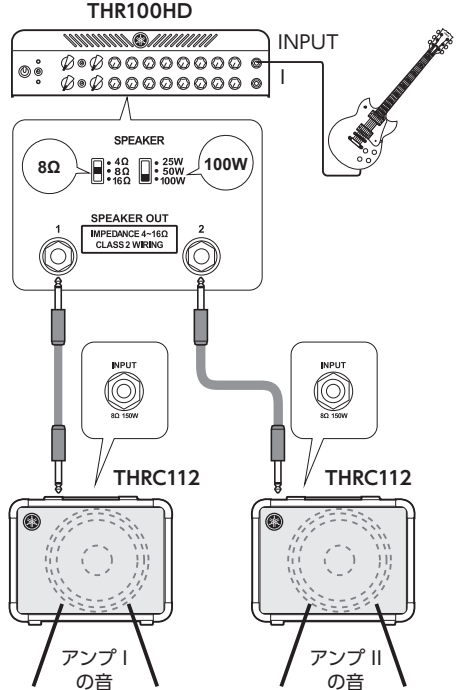
【THR100HD のアンプセレクトスイッチの設定とキャビネットに出力される信号】

- ・アンプセレクトスイッチ = I
アンプ I (上段) の音が出力されます。
- ・アンプセレクトスイッチ = II
アンプ II (下段) の音が出力されます。
- ・アンプセレクトスイッチ = I+II
アンプ I (上段) の音とアンプ II (下段) の音が出力されます。

THR100HD で、SPEAKER OUT 1 端子だけにインピーダンス 4 Ω のキャビネットを接続した場合、定格出力は 50W になります。

● 接続例 3

THR100HD に THRC112 (出力ワット数: 150W、インピーダンス: 8 Ω) を 2 台接続する場合



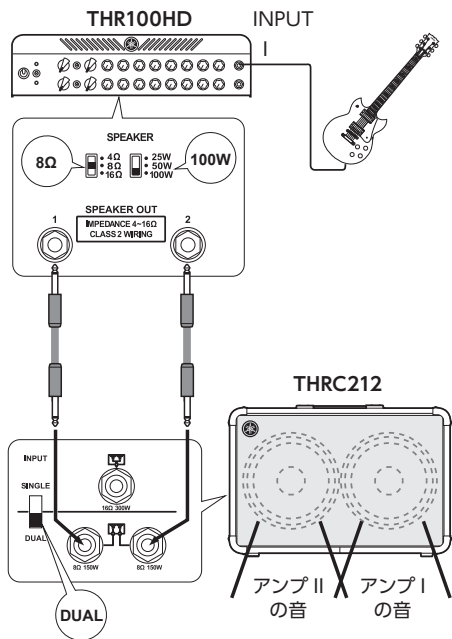
【THR100HD のアンプセレクトスイッチの設定とキャビネットに出力される信号】

- ・アンプセレクトスイッチ = I
アンプ I (上段) の音 が SPEAKER OUT 1 端子に出力されます。SPEAKER OUT 2 端子に信号は出力されません。
- ・アンプセレクトスイッチ = II
アンプ II (下段) の音 が SPEAKER OUT 2 端子に出力されます。SPEAKER OUT 1 端子に信号は出力されません。
- ・アンプセレクトスイッチ = I+II
アンプ I (上段) → SPEAKER OUT 1 端子、アンプ II (下段) → SPEAKER OUT 2 端子それぞれに出力されます。

キャビネットとの接続

● 接続例 4

THR100HD に THRC212 (出力ワット数：各 150W、インピーダンス：各 8 Ω) を接続し DUAL 設定で使用する場合

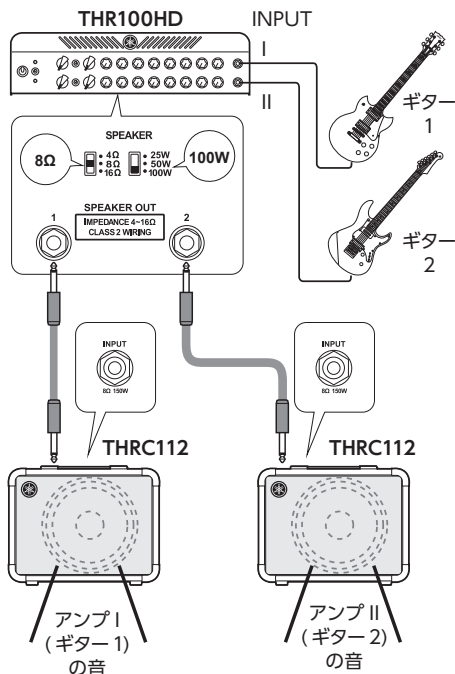


THRC212 の 2 つのスピーカーは、それぞれ独立したスピーカーとして鳴ります。

【THR100HD のアンプセレクトスイッチの設定とキャビネットに出力される信号】は、接続例 3 の場合と同じです。

● 接続例 5

THR100HD に THRC112 (出力ワット数：150W、インピーダンス：8 Ω) を 2 台接続し、ギターを 2 本接続して使用する場合



SPEAKER OUT 1 端子に接続した THRC112 はアンプ I (ギター 1) 用スピーカー、SPEAKER OUT 2 端子に接続した THRC112 はアンプ II (ギター 2) 用スピーカーとして鳴ります。

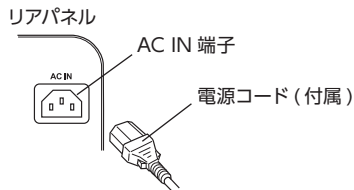
【THR100HD のアンプセレクトスイッチの設定とキャビネットに出力される信号】は、接続例 3 の場合と同じです。

THR100HD で、SPEAKER OUT 1、2 端子それぞれにキャビネットを接続した場合、定格出力は 50W+50W になります。

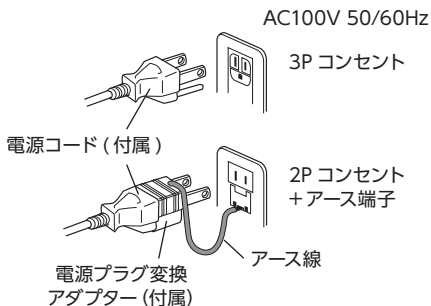
電源の接続

リアパネルの AC IN 端子に付属の電源コードを接続し、AC プラグを AC100V 50/60Hz コンセントに接続します。

アースソケットのないコンセントの場合は、付属の電源プラグ変換アダプターを使い、アース線をコンセントのアース端子に接続します。



⚠ 注意 安全のため、必ずアースを接続してお使いください。



エフェクトループの使い方

外部エフェクターを接続する場合は、EFFECT LOOP SEND/RETURN 端子間に接続します。[図 1]

エフェクトループのオン/オフは、付属のフットスイッチで切り替えることができます。(→ 16 ページ)

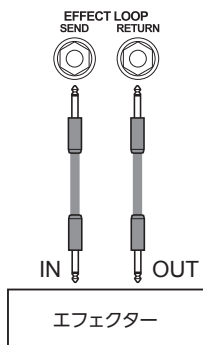
* 工場出荷時、外部エフェクトはシリアル接続される仕様ですが、アプリケーション「THR HD_H Utility」を使うと、パラレル接続に切り替えることができます。(→ 17 ページ)

* EFFECT LOOP SEND 端子と RETURN 端子を直結しないでください。

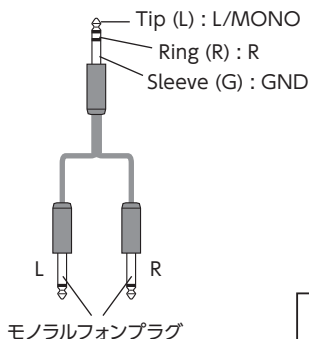
THR100HD では、SEND/RETURN 端子がステレオ仕様 (TRS) で、Tip に L/MONO 信号、Ring に R 信号が割り当てられています。[図 2] Tip、Ring にそれぞれ外部エフェクトを接続する場合は、[図 2] のようなインサートケーブル (別売) を用意し [図 3] のように接続してください。

* [図 3] のように外部エフェクトを 2 台接続する場合は、アプリケーション「THR HD_H Utility」で FX LOOP SEND および RETURN を "Separate" に設定してください。(→ 17 ページ)

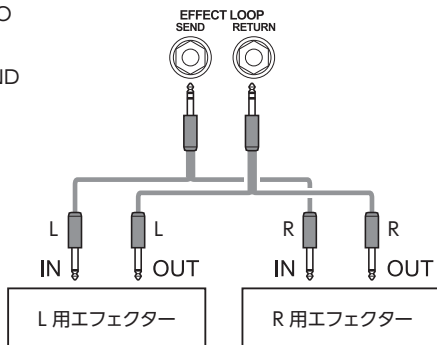
[図 1]



[図 2]



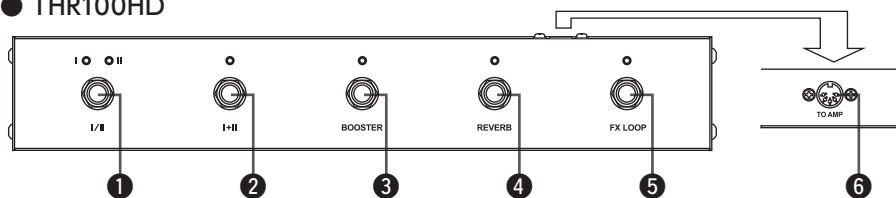
[図 3]



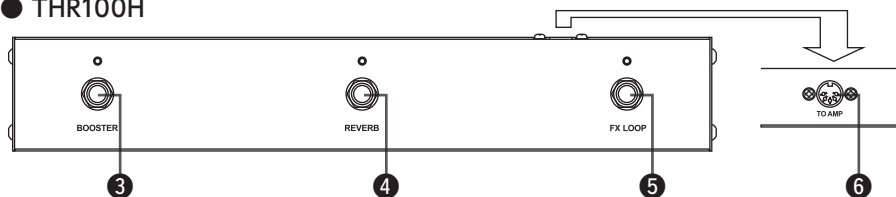
フットスイッチの使い方

付属のフットスイッチを使うと、足元で本機の操作や切替を行なうことができます。

● THR100HD



● THR100H



① [THR100HD] アンプ I/II スイッチ

フロントパネルのアンプセレクトスイッチで I または II を選んだ状態を切り替えます。

② [THR100HD] アンプ I+II スイッチ

フロントパネルのアンプセレクトスイッチで I+II を選んだ状態 (ランプ点灯) にします。もう一度踏むとオフになり、アンプ I/II スイッチ ① の設定が有効になります。

③ BOOSTER スイッチ

ブースターのオン / オフを切り替えます。アンプ I、II 同時に切り替えます。

* フロントパネルの BOOSTER スイッチがオンになっているアンプに対してのみオン / オフの切り替えが有効です。アンプ I、II ともにパネル上で BOOSTER スイッチがオフの場合、このスイッチは機能しません。

④ REVERB スイッチ

リバーブのオン / オフを切り替えます。アンプ I、II 同時に切り替えます。

⑤ FX LOOP スイッチ

リアパネルの EFFECT LOOP SEND / RETURN 端子からの信号をオン / オフします。アンプ I、II 同時に切り替えます。

* アプリケーション「THR HD_H Utility」でエフェクトループのモードが「シリアル接続」に設定されている場合、EFFECT LOOP SEND / RETURN 間にエフェクトを接続せずにこのスイッチをオンにした際に音が出なくなります。

⑥ TO AMP 端子

付属のフットスイッチ用ケーブルで、リアパネルの TO FSW スイッチと接続します。

⚠ 注意

ケーブルの接続は、必ず本体の電源を切った状態で行なってください。

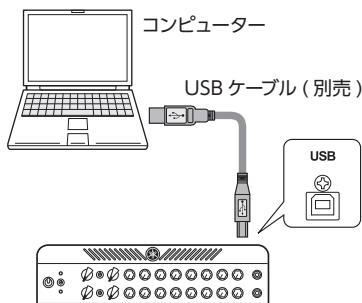
さらに細かく設定するには

■ コンピューターとの接続

本機の USB 端子にコンピューターを接続することで、次のことができます。

- 専用エディター「THR HD_H Utility」を使うためのアンプのエディット
- 本体ソフトウェアのバージョンアップ

コンピューターとの接続には、市販の USB ケーブルをご用意ください。



USB 端子ご使用時の注意

USB 端子間の接続をするときは、以下の注意事項を守ってください。守らなかった場合、コンピューターや本機がハングアップ（停止）して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。ハングアップした場合は、アプリケーションやコンピューターを再起動してください。

⚠ 注意

- USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。また、3 メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0 ケーブルは、ご使用できません。
- USB 端子とコンピューターを接続する前に、コンピューターの省電力（サスペンド / スリープ / スタンバイ / 休止）モードを解除してください。
- USB ケーブルの抜き差しをする前に、コンピューターのすべてのアプリケーションを終了させ、コンピューター側の出力コントロールを最少にしてください。
- USB ケーブルの抜き差しは、6 秒以上間隔を空けて行ってください。
- USB 端子とコンピューターを接続した際、コンピューターのサウンド入出力が行なわれなくなる場合があります。必要に応じて他のデバイスに切り替えてください。

■ THR HD_H Utility を使う

THR HD_H Utility は、THR100HD/100H のパネルコントローラーで操作できない詳細な設定を行なうための専用アプリケーションです。

● THR HD_H Utility でできること

- 内蔵ブースター（BOOSTER）のタイプの切り替え（3 タイプ）
- エフェクトループの本体回路との接続の切り替え（シリアル接続 / パラレル接続）
- 内蔵リバーブ（REVERB）のタイプの切り替え（4 タイプ）
- ノイズゲートの効果の切り替え（OFF/1/2/3）
- スピーカーシミュレーションの設定。アンプタイプごとにできます。
- FX LOOP SEND/RETURN 信号経路の切り替え（Separate/Mixed）

● THR HD_H Utility を使うには

コンピューターと接続する前に、あらかじめ「THR HD_H Utility」および、コンピューターとの接続に必要な「ドライバー」を、ヤマハの下記サイトからダウンロードしておきます。

<http://download.yamaha.com/>

* 動作環境については、上記 URL をご覧ください。

● ドライバーのインストール

1. 以下の URL から、最新の「Yamaha Steinberg USB ドライバー」をダウンロードし、ファイルの実行および解凍をします。
<http://download.yamaha.com/>
* 動作環境については、上記 URL をご覧ください。
* ご使用のコンピューター環境によっては、上記動作環境の条件を満たしていても、正常に動作しない場合があります。あらかじめご了承ください。
* 「Yamaha Steinberg USB ドライバー」は、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記 URL をご覧ください。
2. 「Yamaha Steinberg USB ドライバー」をコンピューターにインストールします。ダウンロードしたファイルに付属されているインストールガイドをご参照ください。

● THR HD_H Utility のインストール

1. 下記のサイトにアクセスし、「THR HD_H Utility」をダウンロードします。
<http://download.yamaha.com/>
* 動作環境については、上記 URL をご覧ください。
2. ダウンロードしたファイルを実行し、表示される画面の指示に従って「THR HD_H Utility」をインストールします。
3. THR HD_H Utility の設定および操作については、THR HD_H Utility の操作説明書やヘルプガイドを参照してください。

● THR HD_H Utility の操作

1. コンピューターと THR100HD/100H を USB ケーブルで接続します。(→ 17 ページ参照)
2. THR100HD/100H の電源を入れた後、THR HD_H Utility を立ち上げます。
3. THR HD_H Utility で各種設定をします。
編集した設定は、THR100HD/100H 本体に保存されます。
* 詳しい設定 / 操作方法については、THR HD_H Utility の取扱説明書をご参照ください。

■ 本体ソフトウェアのバージョンアップの方法

THR100HD/100H の内部ソフトウェアは、改良のためバージョンアップすることがあります。お使いの THR100HD/100H をバージョンアップする場合は、以下の手順で作業を行なってください。

- * あらかじめ最新の「Yamaha Steinberg USB ドライバー」をインストールしておきます。(→ 17 ページ参照)

● バージョンアップ操作

1. 下記のサイトにアクセスし、「THR HD_H Updater」をダウンロードします。
<http://download.yamaha.com/>
* 動作環境については、上記 URL をご覧ください。
2. ダウンロードしたファイル (ZIP 圧縮) を展開します。
3. THR HD_H Updater を実行します。
* 詳しい操作方法については、THR HD_H Updater の取扱説明書をご参照ください。

困ったときは？

電源が入らない

- ・電源コードは正しく接続されていますか？
(→ 15 ページ)

音が鳴らない

- ・INPUT 端子に楽器が正しく接続されていますか？
- ・THR100HD：INPUT II 端子だけに楽器が接続されていませんか？楽器を 1 台だけ接続する場合は、INPUT I 端子に接続してください。
- ・楽器のボリュームは上がっていますか？
- ・GAIN, MASTER, VOLUME の設定が 0 になっていませんか？
- ・アンプセレクトスイッチは正しく設定されていますか？
- ・キャビネットは正しく接続されていますか？ (→ 12 ページ)
- ・アンプタイプセクターで CLEAN を選択している場合、トーンコントロールがすべて 0 の位置では音が出ません。
- ・PHONES 端子にヘッドフォンが接続されていませんか？
- ・楽器との接続ケーブルは断線していませんか？
- ・キャビネットとの接続ケーブルは断線していませんか？
- ・EFFECT LOOP SEND/RETURN 間にエフェクトを接続していない状態で、フットスイッチの FX LOOP をオンにしていますか？ (→ 16 ページ)

使用中に音が出なくなった

1) フロントグリルのランプが消灯している

- ・加熱保護回路が働き、SPEAKER OUT 端子への出力が遮断されました。本体の温度が下がってから電源を入れ直してください。再度保護回路が働く場合は、直ちに電源を切り、電源コードを抜いてお買上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。(→ 21 ページ)
- ・スピーカー接続ケーブルのプラグ先端部がアースに接触したり静電気に触れるなどしてショートしました。スピーカー接続ケーブルを確認し原因を取り除いた後、電源を入れ直してください。再度保護回路が働く場合は、直ちに電源を切り、電源コードを抜いてお買上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。(→ 21 ページ)

2) 電源がオフ状態になっている

- ・内部回路の故障が考えられます。直ちに電源を切り、電源コードを抜いてお買上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。(→ 21 ページ)

仕様

デジタル部

- ・搭載アンプシミュレーション
SOLID, CLEAN, CRUNCH, LEAD, MODERN
- ・搭載エフェクト
BOOSTER (WHITE/GREEN/AMBER*)
REVERB (SPRING/PLATE/ROOM/HALL*)
NOISE GATE*
SPEAKER SIMULATION*
* THR HD_H Utility でのみ設定可能

コントローラー / スイッチ

THR100HD

AMP I, II 共通 : 電源スイッチ, アンプセレクトスイッチ, インピーダンススイッチ, 出力ワット数スイッチ, GND/LIFT スイッチ
AMP I, II 各 1 : アンプタイプセレクター, BOOSTER スイッチ, BOOSTER, GAIN, MASTER, BASS, MIDDLE, TREBLE, PRESENCE, REVERB, VOLUME, POWER SECTION セレクター, CLASS スイッチ

THR100H

電源スイッチ, アンプタイプセレクター, BOOSTER スイッチ, BOOSTER, GAIN, MASTER, BASS, MIDDLE, TREBLE, PRESENCE, REVERB, VOLUME, POWER SECTION セレクター, CLASS スイッチ, インピーダンススイッチ, 出力ワット数スイッチ, GND/LIFT スイッチ

接続端子

THR100HD

INPUT I, II (モノラル標準フォンジャック)
PHONES (ステレオミニフォンジャック)
SPEAKER OUT 1/2 (モノラル標準フォンジャック)
EFFECT LOOP SEND/RETURN (ステレオ標準フォンジャック)
LINE OUT 1/2 (XLR Male)
TO FSW (5P DIN)
USB 2.0 (Type B)
AC IN (3P)

THR100H

INPUT (モノラル標準フォンジャック)
PHONES (ステレオミニフォンジャック)
SPEAKER OUT (モノラル標準フォンジャック)
EFFECT LOOP SEND/RETURN (ステレオ標準フォンジャック)
LINE OUT (XLR Male)
TO FSW (5P DIN)
USB 2.0 (Type B)
AC IN (3P)

入力レベル

INPUT : -10 dBu/1M Ω

定格出力

THR100HD

SPEAKER OUT 1 のみ : 100W (4 Ω 時 50W)
SPEAKER OUT 1+2 : 50W+50W

THR100H

100W

電源

AC100 ~ 240V, 50/60 Hz

消費電力

THR100HD : 60 W

THR100H : 40 W

外形寸法 (W x D x H)

THR100HD : 445 x 248 x 125 mm

THR100H : 445 x 248 x 95 mm

質量

THR100HD : 4.2 kg

THR100H : 3.6 kg

付属品

THR100HD

- ・電源コード × 1
- ・電源プラグ変換アダプター (3P → 2P) × 1
- ・専用フットスイッチ × 1 (5 スイッチ)
- ・フットスイッチ用 5P DIN ケーブル × 1
- ・取扱説明書 (本書 : 保証書付き) × 1

THR100H

- ・電源コード × 1
- ・電源プラグ変換アダプター (3P → 2P) × 1
- ・専用フットスイッチ × 1 (3 スイッチ)
- ・フットスイッチ用 5P DIN ケーブル × 1
- ・取扱説明書 (本書 : 保証書付き) × 1

* この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。取扱説明書の最新版につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけます。う、お願いいたします。

■保証とアフターサービス

- **保証書** 保証書は、販売店にて「販売店印、お買い上げ年月日」の押印、記入をしてお渡し致しますので、お買い上げの際にご確認の上、大切に保管ください。
- **保証期間** お買い上げ日から1年間です。
- **保証期間中の修理** 保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間経過後の修理について** 修理可能な部分は、ご要望により有料にて修理させていただきます。但し、修理料金の金額や補修部品の保有期間の都合により、相当品の代替購入をおすすめする場合がございます。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

◆修理に関するお問い合わせ

- ・ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※ 固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830** へおかけください。

受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00（土日・祝日・センター指定定休日を除く）

FAX でのお問い合わせ： 東日本地域：03-5762-2125（北海道、東北、関東、甲信越、東海 地域）

西日本地域：06-6649-9340（北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄 地域）

◆修理品お持込み窓口

受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00（土日・祝日・センター指定定休日を除く）

※お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

ヤマハ東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

ヤマハ西日本サービスセンター 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX 06-6649-9340

ヤマハお客様コミュニケーションセンター

お買い上げの楽器の使用方法や取り扱いについては、ご購入店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

- ・ヤマハお客様コミュニケーションセンター ギター・ドラムご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-056-808

※ 固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-533-5003** へおかけください。

受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00（土日・祝日・センター指定定休日を除く）

<http://jp.yamaha.com/support/>

商品に関する問合せ先

株式会社ヤマハミュージックジャパン

LM 営業部 東日本営業課 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL 03-5488-5471

LM 営業部 西日本営業課 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ニッセイビル7F
TEL 06-6465-0251

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

持込修理

保証書

This warranty is valid only in Japan.

この度はヤマハギターアンプをお買い上げ戴きましてありがとうございます。本書は、無償修理規定により無料修理を行う事をお約束するものです。お買い上げ日から下記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

品名	ギターアンプ		
※品番			
※製造番号			
保証期間	本体	お買い上げの日から1ケ年間	
※お買い上げ日	年	月	日
※お客様	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>		
	ご住所		
	ご氏名		様
	電話	()	

ご販売店様へ
※印欄は必ずご記入してお渡しください。

※販売店	
店名	印

住所	

電話	()

※ この保証書にご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用いたします。

株式会社ヤマハミュージックジャパン
LM 営業部営業企画課
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488-5445

保証規定

- 保証期間において正常な使用状態（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態）で故障した場合には無償修理を致します。
 - 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご提示のうえ、お買い上げの販売店にご依頼ください。
ご贈答品、ご転居後の修理について、お買い上げの販売店にご依頼できない場合には、最寄りの※ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
 - 保証期間内で次の場合は有料とさせていただきます。
 - 本書のご提示がない場合
 - 本書にお買い上げの年月日、お客様名、お買い上げの販売店の記入がない場合、本書の字句を書き換えられた場合
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障、損傷
 - お買い上げ後の移動、輸送、落下などによる故障、損傷
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害などによる故障、損傷
 - お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金
 - この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
 - この保証書は再発行しませんので大切に保管してください。
- ☆ この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合はお買い上げの販売店、または※ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ※ヤマハ株式会社の連絡窓口その他につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

販売店様へのお願い

お客様のお買い上げ時点で保証書に所定の事項をご記入のうえ、お客様にお渡し下さるようお願い申し上げます。

